

## 第 4 回次期生物多様性国家戦略研究会のテーマと主な論点

## 1. テーマ

## 「身近な地域から地球規模までの自然資源利用における持続可能性の確保」

身近な地域から地球規模までの生物多様性の保全と自然資源利用の持続可能性を確保するため、持続可能なサプライチェーンの構築をベースとして、様々なレベルでの事業者の取組や、それに影響を与える投融資の変化に向けた方策、アンダーユースへの対処を含めた国内資源の有効活用に向けた取組について、主として資源利用の観点から議論する。

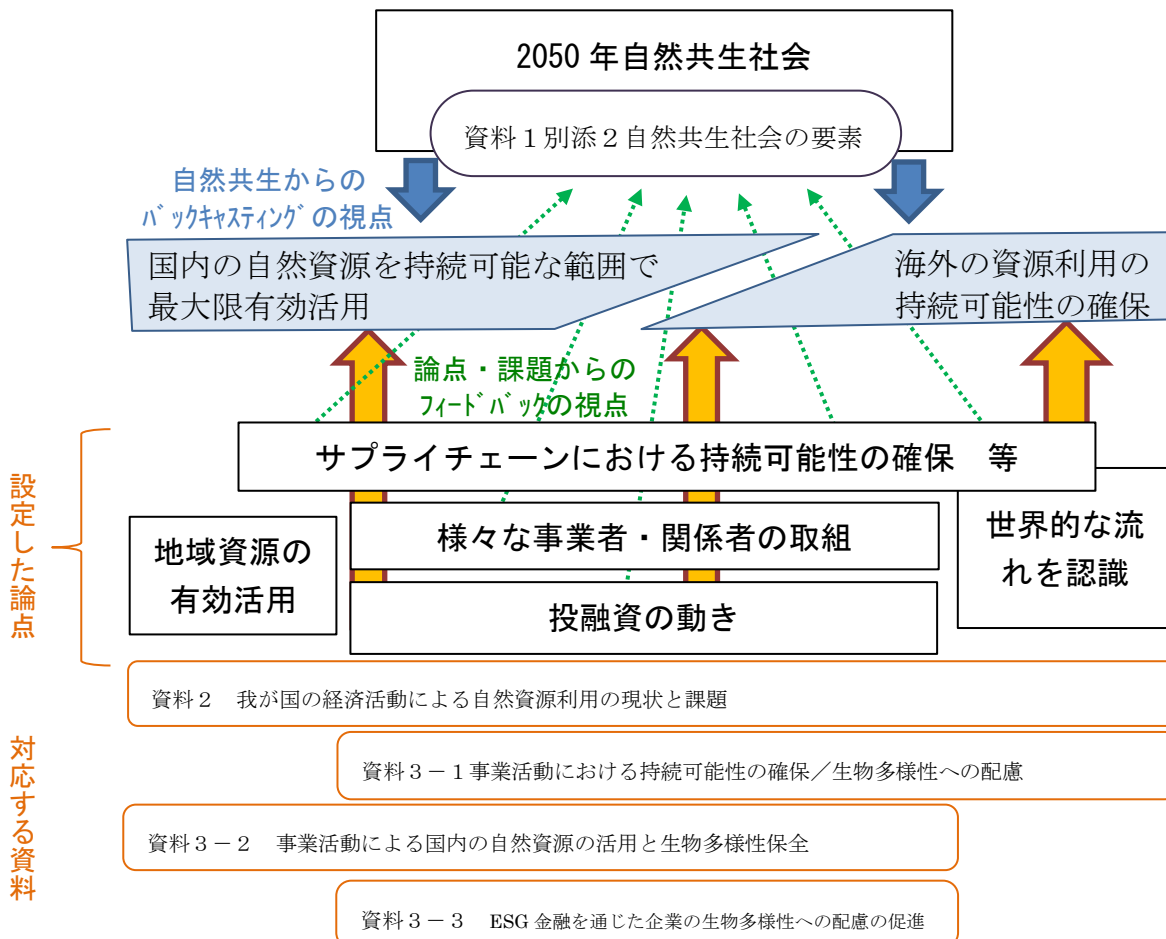
→ 今回は、サプライチェーン（テレカップリング含む）・バリューチェーン、行動の変化（投融資等）、国内の地域資源の有効活用（地域循環共生圏との連携を含む）をキーワードに、主に資源利用に関連した取組を議論。

別添 1：各回のテーマ（第 2 回研究会資料 4）

→ 第 2 回研究会で議論した「自然共生社会の要素」を念頭に置きつつ、同研究会で設定した論点に沿って検討。論点や社会実装に向けた目標設定等でのポイントを、適宜「自然共生社会の要素」にフィードバック。

別添 2：自然共生社会の要素（第 2 回研究会資料 2 を元に作成）

## 今回の資料構成と議論の流れ



## 2. 主な論点（議事3（1）～（3）の各項目ごとに共通の議論のポイント）

### ①「2030ゴール（状態）」

（現行戦略にはない）「2030ゴール（状態）」として、どのような

- ・目標設定（状態）があるか。
- ・達成度合いを測る指標・数値目標の設定があるか。

### ②社会実装に向けた要素（ターゲット）

「2030ゴール」に向け、各取組の社会実装を進めるために、どのような

- ・基本戦略・行動目標（10年間の重点的行動）や、方策があるか。
- ・その進捗・達成を測る指標・数値目標の設定があるか。
- ・指標のベースラインや、達成状況の解釈。

### ③参画・行動を促す要素

多様な主体の参画や行動を促進する要素として、どのような

- ・連携・協働に向けた実現条件があるか。
- ・行動を促す指標や数値目標の設定があるか。

### ④上記①～③に関するエビデンスや事例。

### ⑤上記②～③に関する生物多様性保全上の意義・程度。

### ⑥上記①～③と気候変動対策やポストコロナ社会との関係

## 3. ポスト2020生物多様性枠組の検討状況

- ・ポスト2020生物多様性枠組の0.2ドラフトが日本時間の9月2日に公開（→別添3、参考資料4）。
- ・COP15は2021年5月に開催予定。ただし、当初2020年5月に開催予定であった当該枠組の指標等を議論する補助機関会合（SBSTTA・SBI）は11月開催に延期された後再度延期され、また、ゴール・ターゲットを議論する公開作業部会（OEWG）も延期されて、これらの補助機関会合・作業部会の具体的な開催日程は未定（2021年第1四半期予定）となっており、全体としてスケジュールは流動的。